

日本看護倫理学会第 16 回年次大会

ハイブリッド開催

日時 現地会場：6月3日(土)～4日(日)

オンデマンド配信：～7月2日(日)

会場 聖路加国際大学(東京都中央区)

テーマ ソーシャル・ジャスティス—誰ひとり取り残さない社会のために看護職としてできること

プログラム 大会長講演「誰ひとり取り残さない社会のために看護職としてできること」麻原きよみ(聖路加国際大学)／基調講演「新しい ICN の倫理綱領—看護職の社会声明として」手島恵(千葉大学)／特別講演 1「看護と倫理の言葉たち」小西恵美子(鹿児島大学)／2「政治哲学・ポジティブ心理学と看護倫理」小林正弥(千葉大学)／3「倫理的組織文化をつくる(看護管理と倫理)」勝山貴美子(横浜市立大学)／教育講演 1「人の物語に触れること、なぜそれはケアなのか」宮坂道夫(新潟大学)／2「医療と公衆衛生の倫理—COVID-19 パンデミックの経験から」大北全俊(東北大学)／シンポジウム「各現場での倫理教育の実際と課題」相原ひろみ(大阪公立大学)、鶴若麻理(聖路加国際大学)、久間朝子(福岡大学病院)、小野若菜子(聖路加国際大学)、三森寧子(千葉大学)／市民公開講座 リレー講演「健康と病いの語り」鷹田佳典(日本赤十字看護大学)、射場典子(聖路加国際大学、ディベックス・ジャパン)、栗原幸江(上智大学グリーンケア研究所、マギーズ東京)／特別セミナー「People-Centered Care (PCC) の考え方—聖路加国際病院での実践、JCI や Magnet 認証取得の核になるもの」中村めぐみ(聖路加国際大学)、高野真優子(聖路加国際病院)、中新田知佳(聖路加国際病院)／他

参加登録期間 (後期)～7月2日(日)オンデマンド配信終了まで

参加費 (後期)会員 1 万円、非会員 1 万 1000 円、学生(大学院生除く)2000 円

問い合わせ先 大会事務局 聖路加国際大学

〒104-0044 中央区明石町 10-1

✉ 16thjnea@slcn.ac.jp

運営事務局 株式会社ユビア

〒456-0005 名古屋市熱田区池内町 3-21

☎ 052-872-8101(平日 10:00～16:00)

FAX 050-3737-7331

✉ jneal6@yupia.net

HP <https://jneal6.yupia.net/index.html>

第 70 回日本小児保健協会学術集会

ハイブリッド開催

日時 6月16日(金)～18日(日)

(会場開催終了後、オンデマンド配信予定)

会場 川崎市コンベンションホール(川崎市中川区)

テーマ 小児医療と保健の近接化を考える

プログラム 会頭講演 小枝達也(国立成育医療研究センター こころの診療部)／基調講演／特別講演／シンポジウム 1「子どもの性被害・性虐待に立ち向かう」／2「予防接種」／3「若手企画シンポジウム」／4「アレルギー」／5「これからの乳幼児健診」／6「命の授業」／7「IT を取り入れた医療と保健」／教育講演／一般演題／他

問い合わせ先 学術集会事務局

国立研究開発法人国立成育医療研究センター こころの診療部

〒157-8535 東京都世田谷区大蔵 2-10-1

事務局長：田中恭子

学術集会運営事務局

株式会社ケイ・コンベンション

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-27-2 山本ビル 2 階

☎ 03-5367-2382

FAX 03-5367-2187

✉ jsch2023@k-con.co.jp

HP <https://www.k-con.co.jp/70jsch2023/index.html>

第 14 回全国助産師教育協議会総会

WEB 開催

日時 6月17日(土)～18日(日)

問い合わせ先 全国助産師教育協議会事務局

〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町 7-9 四谷ニューマンション 203 号

☎ 03-6384-2075

FAX 03-6384-2076

✉ zenjomid.1965@car.ocn.ne.jp

HP <http://www.zenjomid.org/>

第 37 回日本保健医療行動科学会 学術大会

会場開催

テーマ 未来志向の保健医療行動

日時 6 月 17 日(土)~18 日(日)

会場 東大阪大学(大阪府東大阪市)

プログラム 体験学習ワークショップ(他者と関わる技術 I)1「アンガーマネジメント」中川淳(日本アンガーマネジメント協会近畿支部長)／2「マインドフルネス」喜田智也(NPO 法人マインドフルネスリテラシー協会理事長)／(他者と関わる技術 II)3「‘おだいじに’ だけでは済まない言葉かけレッスン」諏訪茂樹(東京女子医科大学)／4「グラフィックファシリテーション」奥野美里(コクリエ・ラボ代表)／基調講演「未来志向の保健医療行動」馬込武志(第 37 回大会長, 東大阪大学)／交流集会 学会指定「職種間理解のための対話的ミーティング」学会企画共同研究チーム／[市民公開講座] 特別講演「ストレスの正体」中川晶(京都看護大学, なかがわ中之島クリニック)／シンポジウム「なぜ私たちは縁起でもない話を避けるのか」川邊綾香, 川邊正和(綾正会かわベクリニック), 他／一般演題(口頭・ポスター)

参加費 [事前申込] 会員 5000 円, 非会員 6000 円, 大学院生 3000 円, 学部学生 2000 円／[当日参加] 会員 6000 円, 非会員 7000 円, 大学院生 4000 円, 学部学生 3000 円／懇親会 6000 円

*ワークショップの参加申込は事前参加申込と同時に「事前申込」登録フォームから

問い合わせ先 実行委員会事務局(担当: 田井愛事務局長 岡本響子)

〒577-0044 東大阪市西堤学園町 3-1-1 東大阪大学短期大学部馬込研究室内

✉ 37jahbs@gmail.com

HP <https://www.jahbs.info/taikai37.html>

第 59 回日本周産期・新生児医学会 学術集会

会場開催

日時 7 月 9 日(日)~11 日(火)

会場 名古屋国際会議場(名古屋市熱田区)

テーマ 周産期医療の進歩と調和

プログラム 会長講演 池田智明(三重大学医学部

附属病院, 三重大学大学院医学系研究科産科婦人科学)／海外招待講演「Prenatal Origins of Heart Disease」Dino Giussani (Department of Physiology, Development and Neuroscience, University of Cambridge, UK)／「Hidden clocks: the importance of understanding time for diagnosis and treatment of evolving perinatal brain injury」Laura Bennet (Department of Physiology, The University of Auckland, New Zealand)／教育講演 1「がん・生殖医療と周産期医療の連携に関する課題」／2「硬膜外鎮痛の歴史と最近の進歩—愚者は経験に学び, 賢者は歴史に学ぶ」／3「重症新生児に対する迅速なゲノム診断の現状と展望」／4「ほんとうに, 経膈分娩・母乳保育がよいのか?」／5「RPOC」／6「周産期心筋症」／7「梅毒合併妊婦と先天梅毒児の診断・治療の up-to-date」／8「NICU での抗菌薬適正使用の実践」／9「当院における食道閉鎖症に対する治療方針: 胸腔鏡下根治術を中心に」／10「妊産婦の頭蓋内出血」／11「The “Gentle Cesarean” and other current topics in Obstetric Anesthesia」／シンポジウム 1「帝王切開—疾患構造の変化に対応する新たな取り組み」／2「CDH 難治例手術の要点と盲点(重症症例・合併症症例の対応と胸腔鏡手技の実際)」／3(日本母体胎児医学会共同企画)「胎児水腫の評価と対応」／4「産科麻酔と児の短期的・長期的アウトカム」／5「早産児の黄疸管理の展望—早産児ビリルビン脳症の撲滅をめざして」／6「母乳バンク時代を迎えて—これまでの進歩と周産期医療・社会との調和」／7(医療の質・安全学会共同企画)「持続可能で質の高い周産期医療の実現にむけて—多領域専門家による情報共有」／8「身近なところで気軽に行う臨床研究」／9「脳性麻痺の予防と診療: 分娩管理から NICU 診療, 整形外科的治療まで」／10「先天性心疾患と手術・予後(心臓外科)」／11「周産期センターにおける医師の働き方改革への対応」／12「慢性肺疾患・肺高血圧症の管理と遠隔期フォロー」／13「新生児搬送のこれから」／14「妊娠糖尿病について」／15「妊産婦死亡事例から学ぶ—13 年間の活動から視えてきたこと」／16「周産期の痛みに向き合おう—母と子と医療従事者が痛みを共有する」／17「一絨毛膜双胎の病態と課題—予後改善への展望を語る」／18「NIPT の新

時代—これから何が必要か?」／19「生殖と周産期—良好なサイクルを回すために必要な情報共有と連携を考える」／20「早産児に併存する神経発達症(主に自閉スペクトラム症)—有病率・診断・治療的アプローチ」／21「Family centered cesarean delivery—多職種で考える」／22「未熟児網膜症の新たな治療戦略」／他

問い合わせ先 運営事務局

株式会社コングレ 中部支社内

〒461-0008 愛知県名古屋市中区武平町 5-1 名古屋栄ビルディング 7F

☎ 052-950-3430

FAX 052-950-3370

✉ jspnm59@congre.co.jp

HP <http://jspnm59.umin.jp/index.html>

日本小児看護学会第 33 回学術集会

ハイブリッド開催

日時 現地会場：7月15日(土)～16日(日)

オンデマンド配信：7月20日(木)～8月20日(日)(予定)

会場 パシフィコ横浜 会議センター(横浜市西区)

テーマ 子どもたちの未来を見据え、今やるべきこと

プログラム 特別講演1「未来の子どものウェルビーイング(仮)」ドミニク・チェン(早稲田大学文学学術院・文化構想学部教授)／2「未来の人口統計と世界予測、統計から考える未来(仮)」林玲子(国立社会保障・人口問題研究所副所長)／教育講演1「子どもの発達の可能性と初期の相互作用(仮)」辻晶(東京大学国際高等研究所ニューロインテリジェンス国際研究機構講師)／2「医療的ケアがあっても安心できるインクルーシブ社会を目指して(仮)」内多勝康(国立成育医療研究センターもみじの家ハウスマネージャー)／シンポジウム1「広がれ、子どもの笑顔の場(仮)」胡内敦司(厚生労働省子ども家庭局総務課課長補佐)、塩川亜紗美、熊谷智子(医療法人社団思葉会 MEIN HAUS 重症児児童発達支援・放課後等デイサービス管理者)／2「ICTの利活用と小児看護—未来を担う人の育みを考える(仮)」小川純子(淑徳大学看護栄養学部教授)、ウィリアムソン彰子(神戸大学医学部附属病院副看護部長)、監物佳

子(聖路加国際大学大学院看護学研究科)／日本老年看護学会合同企画「子どもとお年寄りが醸し出す居場所」柴田三奈子(株式会社ラピオン代表取締役)、佐塚昌史(NPO 法人じゃんけんぽん副理事長)、杉雄一(社会福祉法人江東園事業部長)、亀井智子(聖路加国際大学大学院看護学研究科教授)／テーマセッション／一般演題(口演・示説)／他

参加申込 (前期)～6月16日(金)、(後期)7月1日(土)～8月20日(日)

参加費 (前期)会員1万円、非会員1万2000円、(後期、当日受付)会員1万2000円、非会員1万4000円、学生(前後期共通)3000円

問い合わせ先 第33回学術集会事務局

東邦大学看護学部小児看護学研究室

〒143-0015 東京都大田区大森西 4-16-20

☎ 03-3762-9881(代表)

運営事務局 株式会社ユピア

〒456-0005 名古屋市熱田区池内町 3-21

☎ 052-872-8101(平日 10:00～16:00)

FAX 050-3737-7331

✉ jschn33@yupia.net

HP <https://jschn33.yupia.net/>

※掲載している情報は4月30日時点のものです。最新の情報は主催元にご確認ください。